

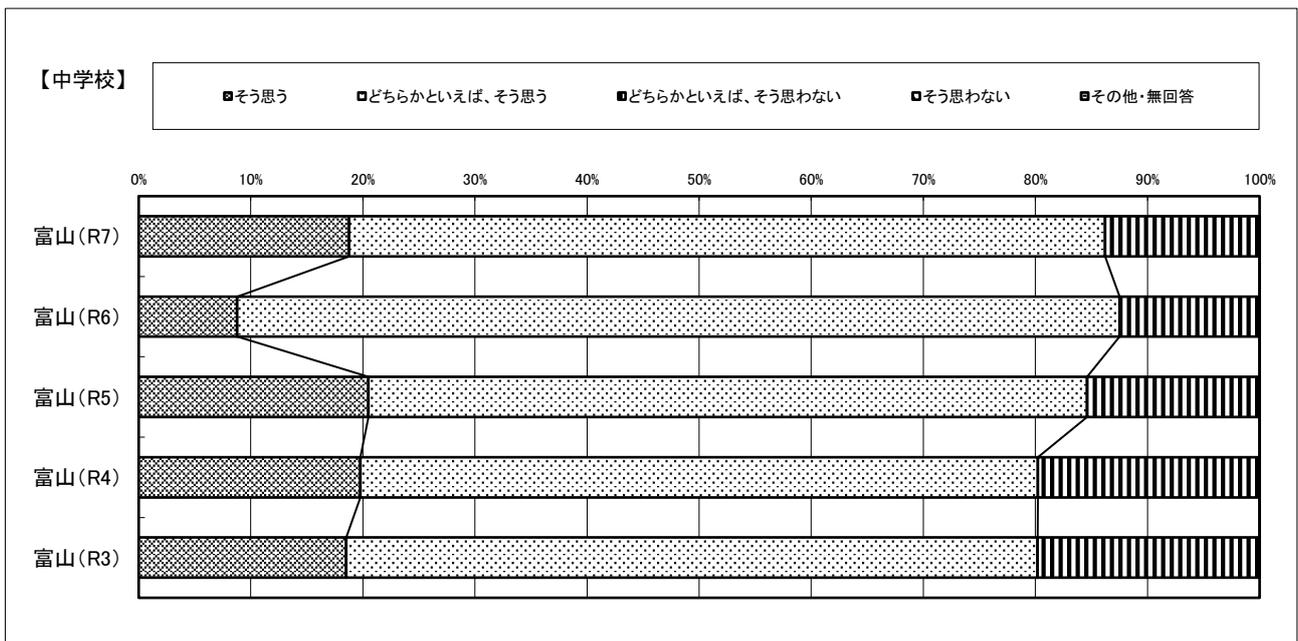
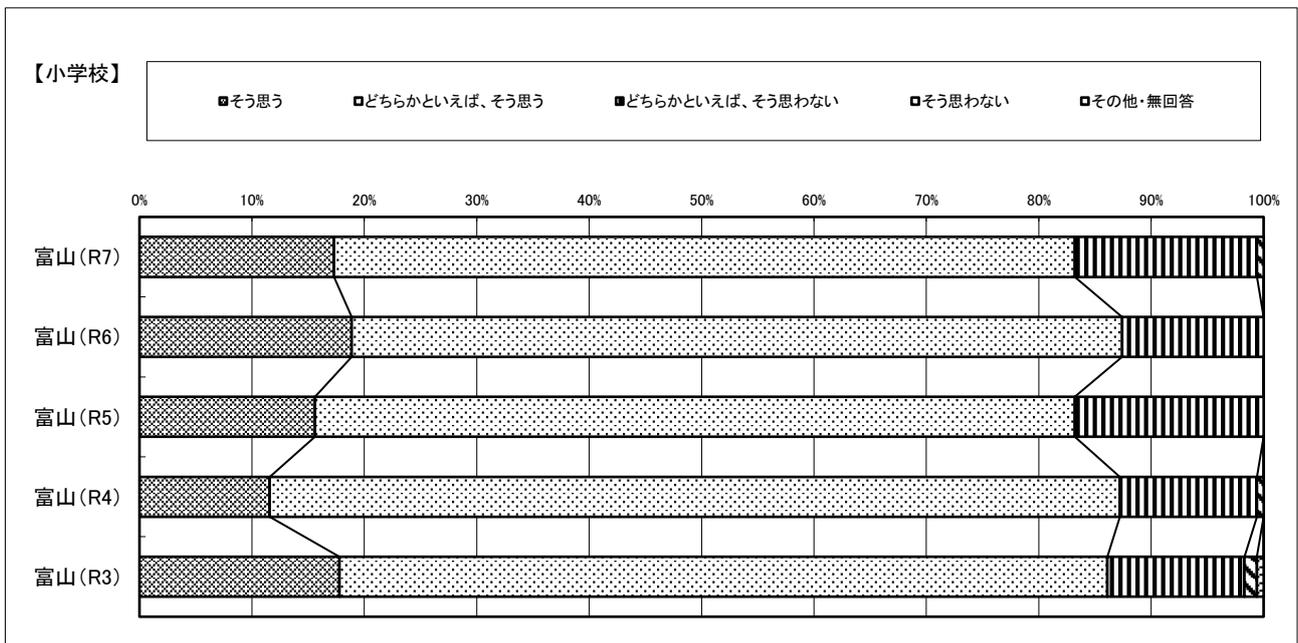
# 令和7年度 学校質問調査結果の概要と分析

・現状 ○要因 ◎対策

## 1 主体的・対話的で深い学び、問題発見・解決能力の育成

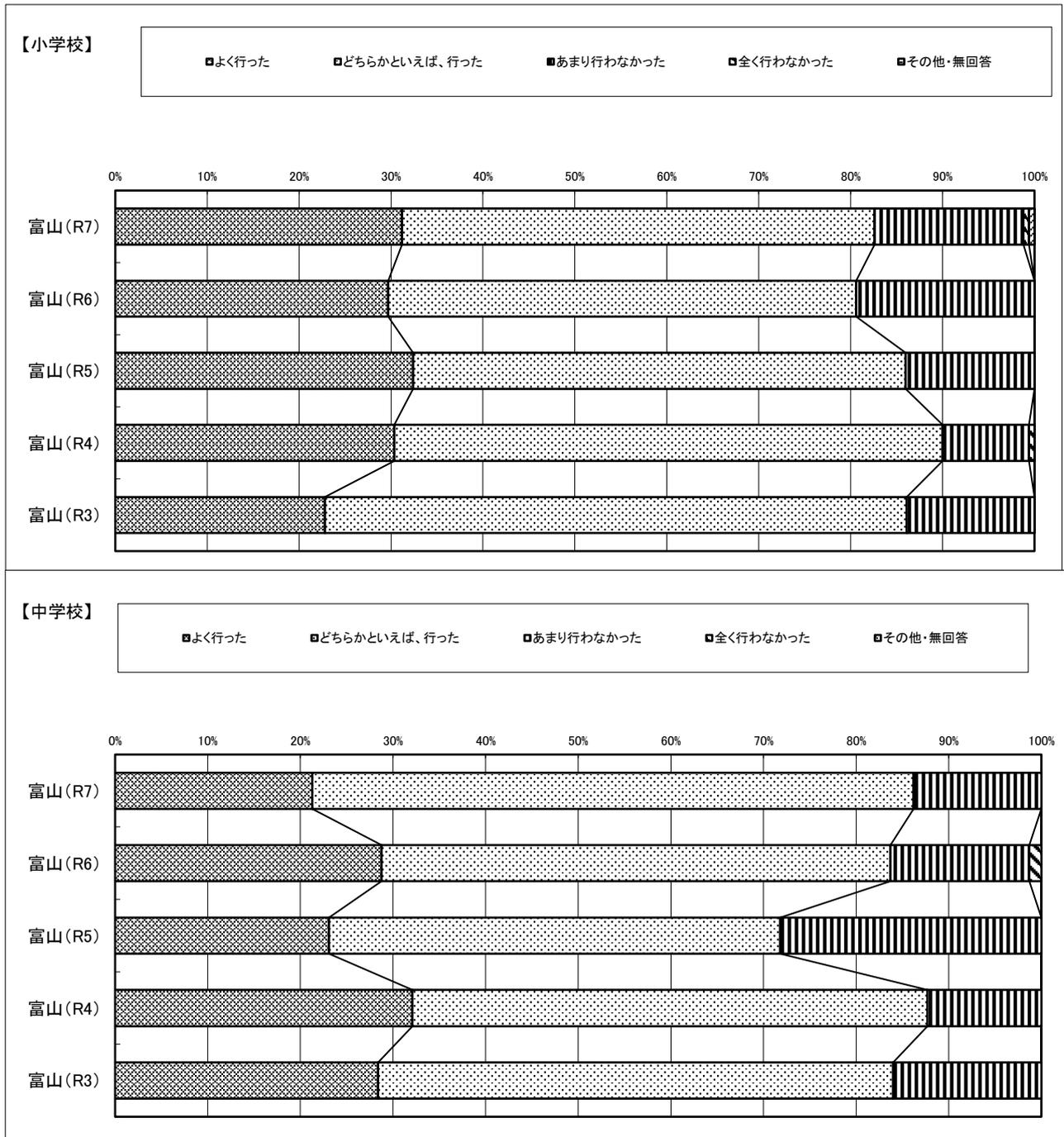
(1) 調査対象学年の児童（生徒）は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか（質問小中25）

・「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した学校の割合は高く、過去5年間、小学校では大きな変化はなく、中学校では増加傾向にある。  
 ○授業において、個別に学ぶ場面、協働する場面を一人一人の主体的な学びにつながるよう工夫していることが考えられる。  
 ◎児童生徒の学びがより主体的なものとなるためには、単元構想や学習環境の工夫、問題（課題）意識を高めることが大切である。また、自分に合った学び方を選択できるよう、活動の手順を示したり、情報を収集・選択し考えをもたせる工夫をしたりすることも大切である。



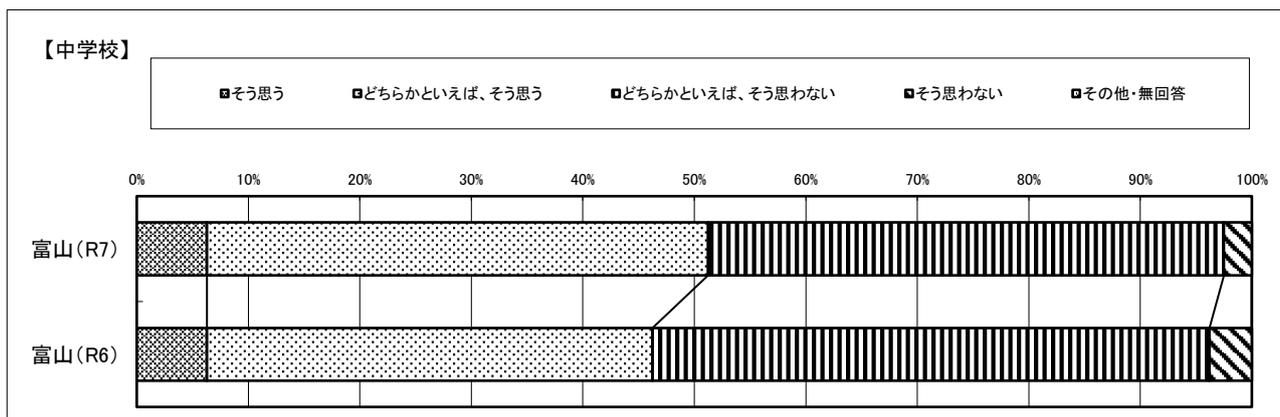
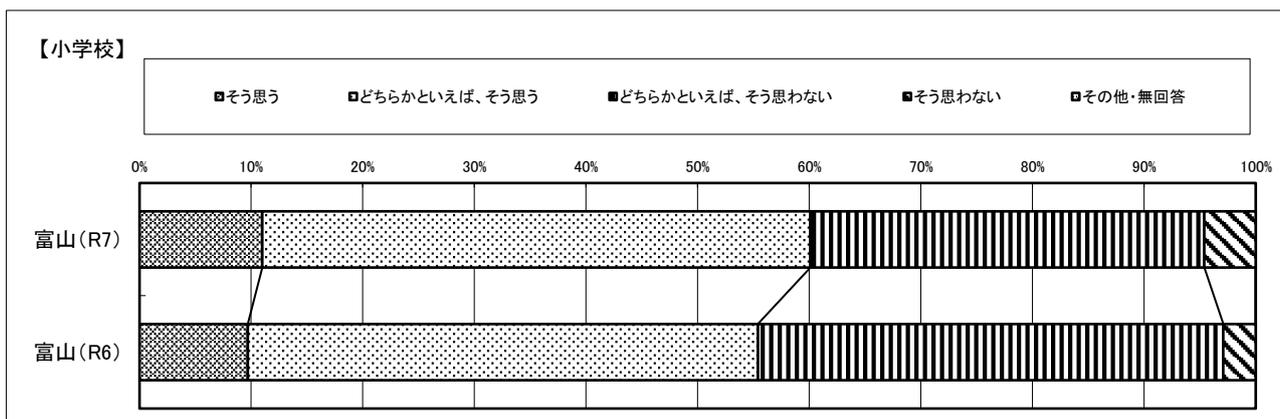
(2) 調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、授業において、児童（生徒）自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか（質問小中 32）

- ・「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合は、過去5年間、小・中学校ともに増減があるが、小学校ではやや減少傾向、中学校では令和5年度を除き、同程度である。
- ペアやグループ等の学習形態を工夫し、対話を大切にした授業が行われているが、まとめ、表現する学習活動に結び付いていないと考えられる。
- ◎問題解決的な学習過程を重視した取組を更に推進していくためには、児童生徒が自己の考えを広げ深められるような単元構成を工夫するなど、授業改善を行うことが大切である。



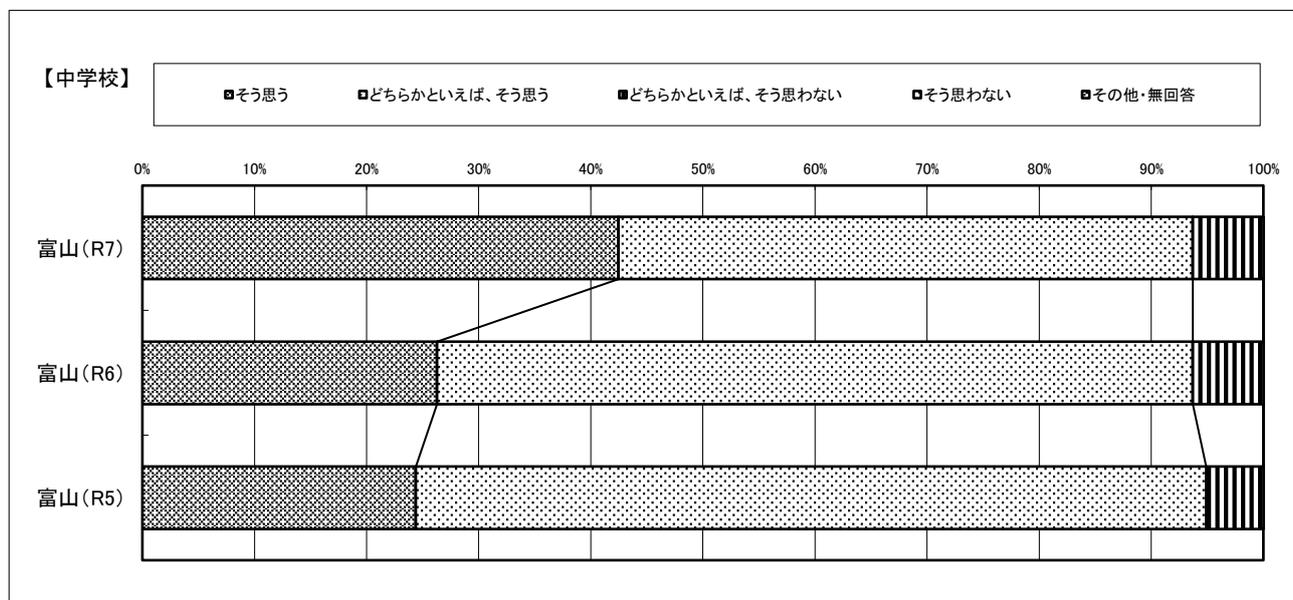
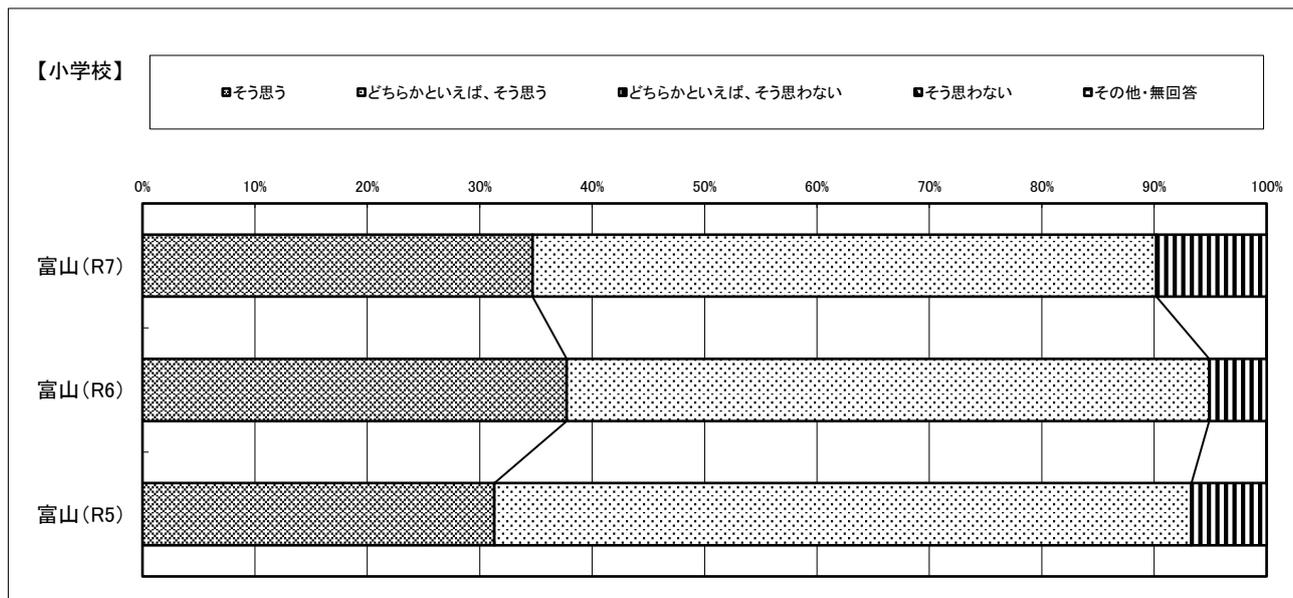
(3) 調査対象学年の児童（生徒）は、授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っていると思いますか（質問小中 29）

- ・「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した学校の割合は、小学校では6割程度、中学校では5割程度である。
- 問題解決的な学習を取り入れる授業づくりに取り組んでいるが、児童生徒が自ら問題を見だし、自分の力で問題解決できたと実感できるまでに至っていない。
- ◎児童生徒が自分の力で学習を進めることができるよう、課題解決の過程で自分の学習状況を把握し、友達と話し合っ方向性を見直したり、必要な内容について考えたりする場を設定することが大切である。



(4) 調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、学習指導において、児童（生徒）が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか（質問小中 31）

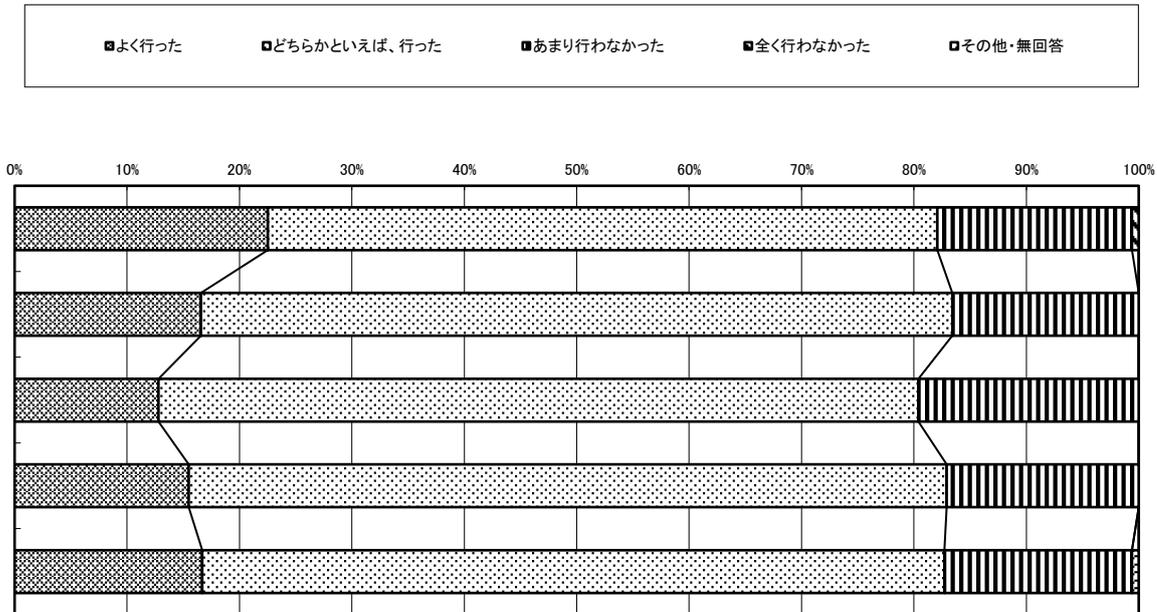
- ・「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した学校の割合は、過去3年間、小・中学校ともに減少傾向にある。
- 話し合いでは、一人一人が思いや考えを发表することに終始し、友達の意見から考えを深めていく学習活動に至っていないことが考えられる。
- ◎児童生徒が、考えたり話し合ったりすることの必要感を感じられるようにするためには、身の回りの事象から学習課題を探したり、他者の考えを基に自分の考えを考察したりする場を工夫することが必要である。



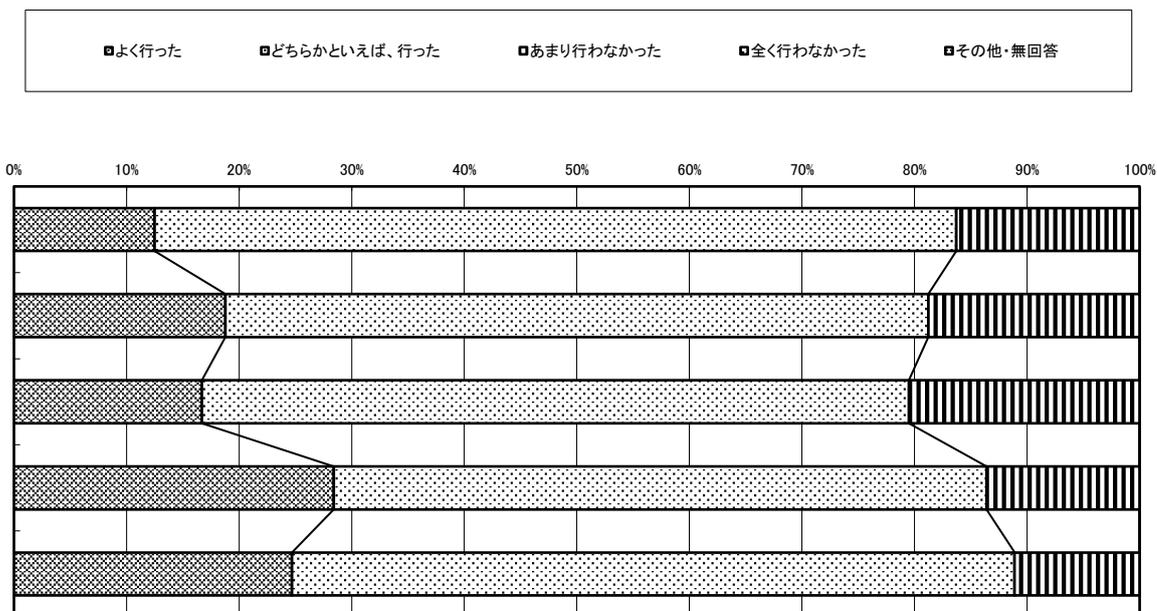
(5) 調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか（質問小中 33）

- ・「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合は、過去5年間、小学校では同程度、中学校では減少傾向にある。
- 総合的な学習の時間等の探究的な学習において、既存の単元構想や学習内容の見直しが十分に実施されていない場合があると考えられる。
- ◎児童生徒が深い理解を伴う知識を習得していくため、児童生徒の実態を踏まえた単元構想を行い、既存の知識・技能を関連付けて考えたり、他の学習や生活の場面で活用したりする学習活動を行うことが大切である。

【小学校】



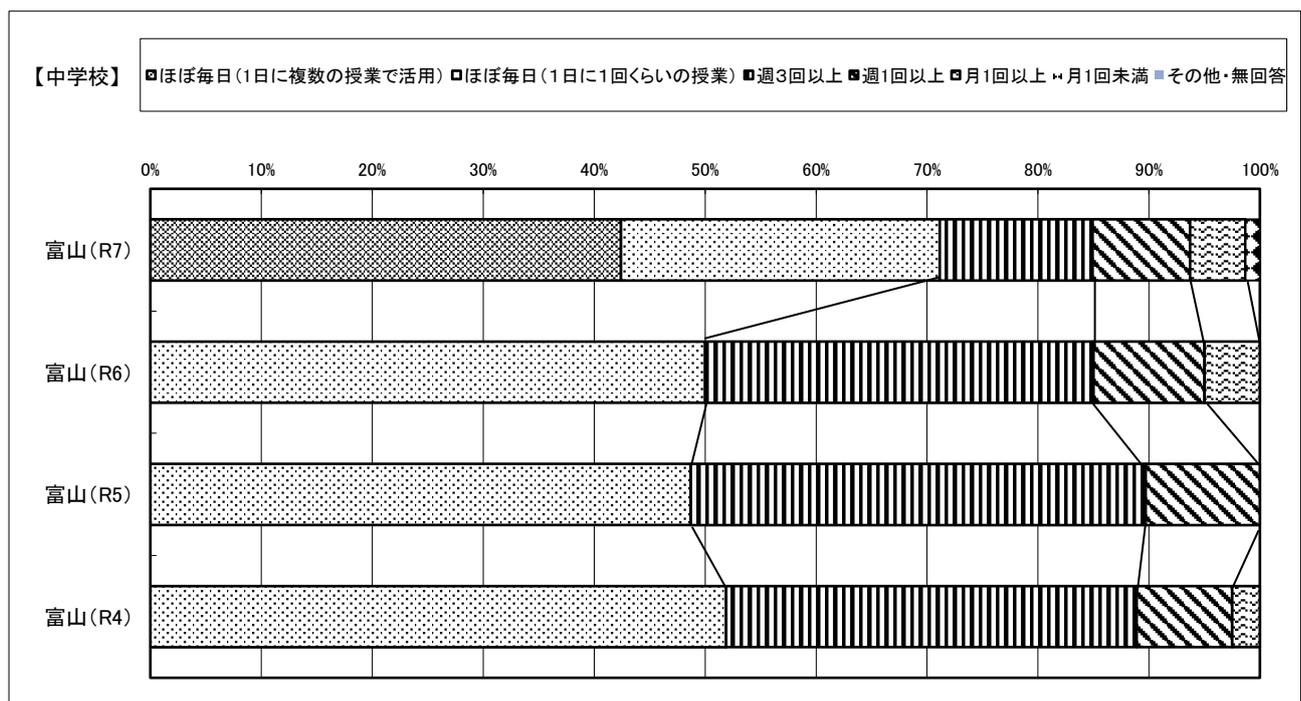
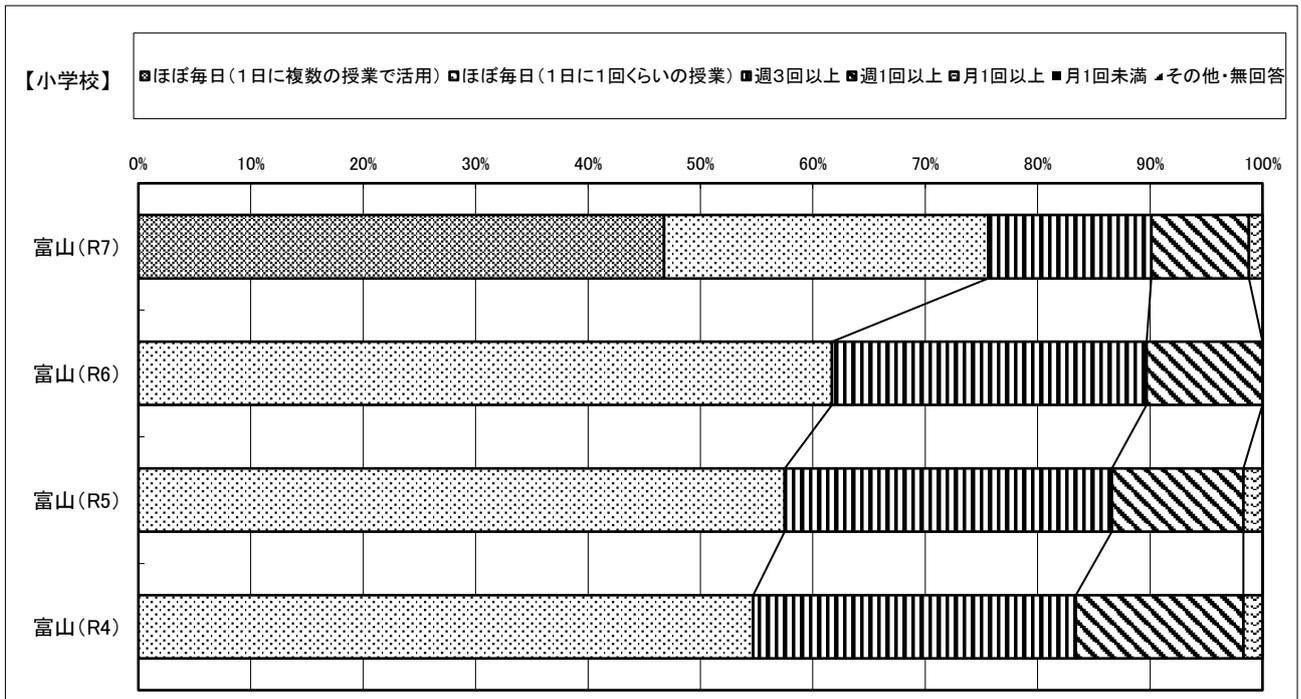
【中学校】



## 2 ICTの活用

前年度までに、児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度使用しましたか（質問小中58）

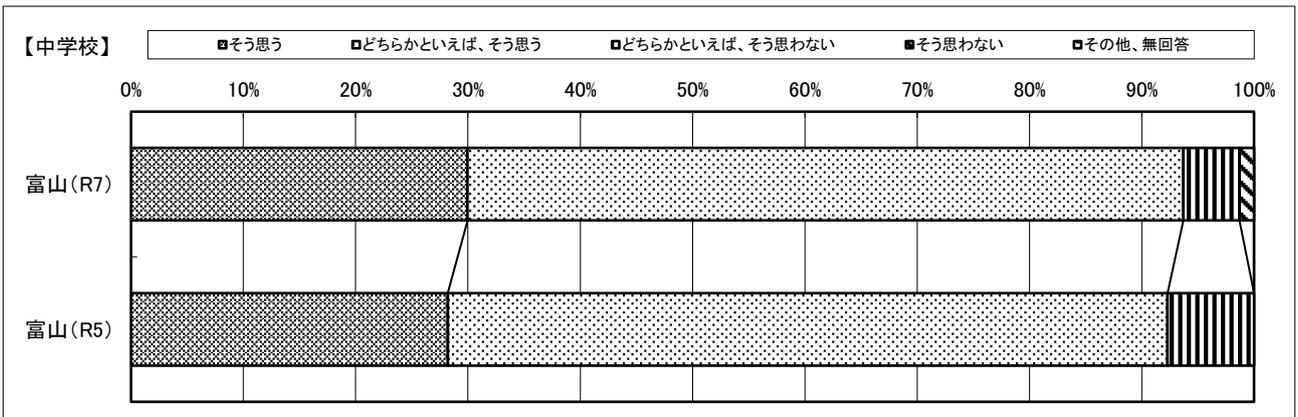
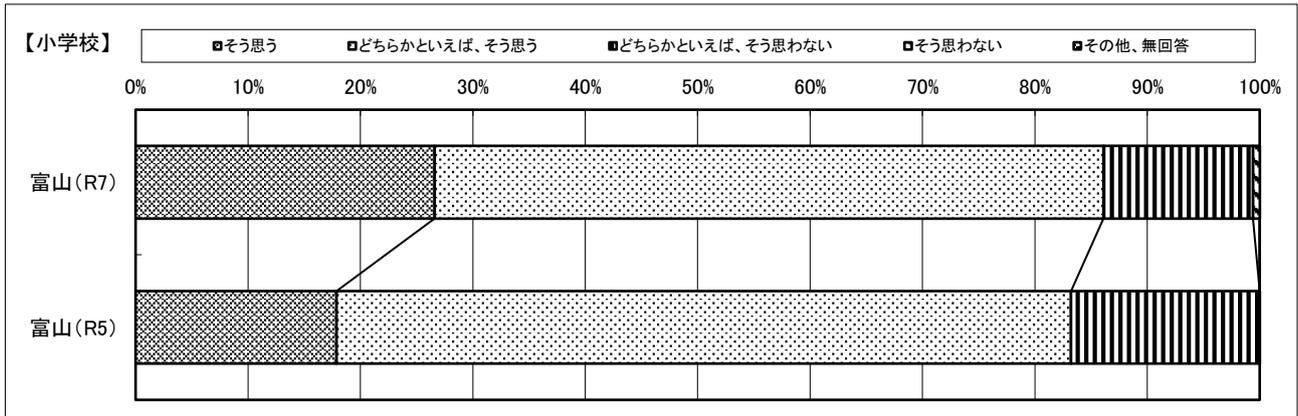
- ・「ほぼ毎日（1日に複数の授業で活用）」「ほぼ毎日（1日に1回くらいの授業）」と回答した学校の割合は、過去4年間、小・中学校ともに増加傾向にある。
- 授業の導入、展開、終末と、様々な場面でICT機器を使用したり、ワークシートや思考ツールを使って考えが深まるようにしたりするなど、活用が広がっていると考えられる。
- ◎情報活用能力の育成に向け、ICT機器を学習ツールの一つとして日常的に活用し、児童生徒自身がICT機器を自由な発想で活用できる環境を整え、学習活動の充実を図ることが必要である。



### 3 学習評価

調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、学習評価の方針を児童（生徒）に示した上で、児童（生徒）の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や児童（生徒）の学習改善に生かすことを心がけましたか（質問小中 40）

- ・「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した学校の割合は高く、令和5年度と比べると、小・中学校ともに増加している。
- 学習の見通しやゴールを児童生徒と共有した上で、各自の学習状況を把握して評価し、授業改善に結び付けていると考えられる。
- ◎児童生徒が学習したことの意義や価値を実感できるようにするため、児童生徒のよい点や進歩の状況等をより積極的に評価していくことが必要である。また、各教科の単元等の内容や時間のまとまりを見通しながら場面や方法を工夫して評価し、資質・能力の育成に生かすことが大切である。



#### 4 全国学力・学習状況調査等の活用

令和6年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか（質問小中83）

- ・「よく行った」「行った」と回答した学校の割合は、過去5年間、小学校では高い割合でほぼ同程度、中学校は令和5年度をピークに減少傾向にある。
- 中学校では、学年・教科ごとの分析・活用はできているが、学校全体で教育活動を改善する具体策を共有するまでに至っていないと考えられる。
- ◎多面的に分析した結果を有効に活用するためには、学校全体で調査結果を基に児童生徒の学力や生活に関する傾向や課題を把握したり、課題がみられた点を中心として校内研修を実施したりするなど、児童生徒の学力や生活の改善、向上に努めていくことが大切である。

